

昭和47年2月10日第3種郵便物認可
1994年1月1日発行毎月1回1日発行

保育者と父母を結ぶ雑誌

ちいさい なかま

特集

どんな家族を
つくってますか

1月号

1994—NO. 300



★創刊300号★

どんな家族をひいてみますか 私たちこんな家族をひいてみます

障害があってもなくても子育ては夫婦が担うもの——神原晋彦・真智子さんを訪ねて ●ゆあさふみえ 24

対談・便利ですよ一家に二台保父の親父 ●佐藤若夫・佐藤真澄 28

クレイマー・クレイマーからめでたく二十一人家族へ ●茶畑和也 32

家族は、いつしよに暮らしてこそ ●佐川徹二 34

大風も吹き、雨も降るけど、花も咲き、実も結ぶ ●牧裕子 38

若くてハンサムで、心やさしい男たち困まれて ●伊豫部志達子 42

「腹を割って話しあう」を家訓に八人の家族が…… ●相馬みどり 43

在日朝鮮人として外に開かれた家族を ●廣玲子「カンミンジャ」 45

こんなはずじゃない！——現代家族の素顔 ●大原久美 48

家族を家族たらしめる生活をめざして ●深谷鮎作 52

巻頭カラー 子どもたちの日本 水之都 松江市 ●写真・村岡博 1

とびら詩 ●たかぎゆう 5

表紙のうたちょうぴりおとなのうた ●おちのりこ 6

わか幼き日 子どもたちの姿に幼い自分を重ねて ●山北敦子 10

連載

おっさいなかま ●異年齢父さん ●吉原さち丸 61

おかわりちょうたい——保育園の人気献立 ●きりたんば風おじや ●こまくさ乳児園 62

あそびの王様 ●でんでん虫のおさんば ●福尾野歩 64

育児文化リーダー ●スナック菓子大好き [2] ●清水玲子 66

子どもたちの日本・わたしのアングル ●渡来人を受けいれてきた古からの優しさ ●茶の香 ●村岡博 68

わたしの街から子どもたちは ●保育運動の波 巻きおこる ●山口県保育問題連絡会 78

豊かな園の子どもたち ●嫌われるのが怖いんです 躁状態の影にあるもの ●斎藤茂男 80

連載講座 発達を見る目

子ども時代をたっぷり生きる ●加用業代子 72

読者のページ 12

新刊案内 88

保育運動のページ 89

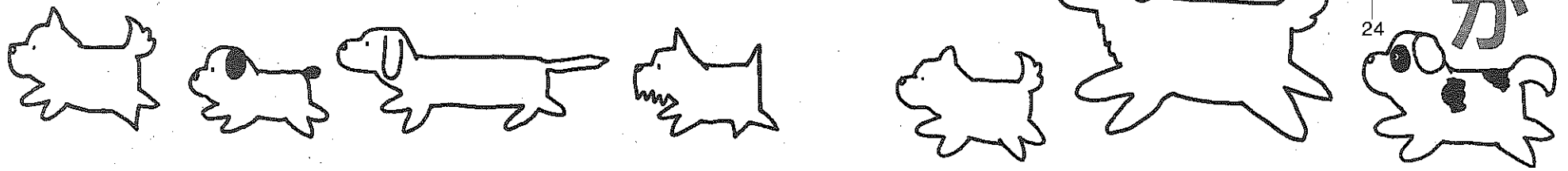
保育ジャーナル 94

編集後記 96



ちいさいなかま
目次

表紙 ●土田義晴 構成 ●広瀬郁
イラスト ●園房江 / 五十嵐正克 / 斎藤真起 / 西岡周造 / 関口シュン
鹿野桃子 / 伊仏文一 / 西垣泰子 / 笠原理恵 / 小塚聡子
写真 ●村岡博 / 岸本正義 レイアウト ●日下充典



ちいさいなかまの ここが好き ここが嫌い

父母の本音が聞ける
細川俊子・岩羊

『ちいさいなかま』は身近な人たち、仲間の声がそのまま感じられ、親しみやすく、読んだあと、私ももつともつとがんばらなければと思ってしまう。

保育者の声も父母の声もまるでわが園の職員や父母の声と同じで、双方の身になって考えられます。

父母はなかなか本音を言ってくれませんので『ちいさいなかま』を読んでいると直接言われたような気になります。

(保育者)

共感できるから読む
照屋智恵・沖繩

いわゆる学識経験者の教科書的な内容ばかりでないところが好きです。

実際に子育てに四苦八苦している方がたの声に直接ふれたり、共感できることが、読みつづける理由です。社会情勢についても学べるところがいいですね。

書店に並ぶだいたいの育児

雑誌はカラー写真満載できれいですが、保育が行政のなかでどう扱われているかなんて一言も出ていません。(母親)

保母以外の実践もほしい
荒川公子・長野

子育て中の母親には適当な厚さで、一ヶ月に読みきれれるのでもいいなあと 생각합니다。欲を言えば子育ての悩みをこんなふうにしたら解決できたとか、保育園と親の間にあつたいろいろな問題に対してこんなふうにとりくんだら変わってきたなど、保母以外の人の実践もあつたらいいなあと思っています。(母親)

手軽さが大々好き
藤井志奈子・広島

カバンのなかにチョココンと入って、少しの時間にパッと開いて読むことができる。そんな手軽さが大々好き。ちい

さな空間に子育て、共働き家族への熱い熱いメッセージがいっぱいつまんでとても心強いひとことです。これからもがんばって！と熱いエールを送ります。(母親)

ちいなかネットワークを
石井みち・鹿児島

変に読者に媚びない態度、姿勢はとても好感がもてます。良心的で読んだあと心にも響くものがしっかりと残ります。ちいさいなかまのネットワークづくりの手助けをしていたら、なおありがたいです。(母親)

ざっくりばらんな雑誌
堀辺一美・奈良

保育園ですすめられ断りき

ごいパワーの一ページです。(母親)

親のもつ思いは同じ
仲野由美・大阪

私はずっと児童福祉法の「保育所は……保育に欠ける乳幼児を保育する」という言葉に「反発を感じ、保育所こそ「子どもの全面発達をめざして設置される」場所だと考えてきました。『ちいさいなかま』と出あって、ああ、親の持つ思いは同じなのだと思わためて知りました。

とくに「おっきいなかま」のマンガと文には子育て中の親の願いや思いがにじみでていてお見事！という他ありません。いつも父さんに見せて笑ったりひとしきり話題にしています。(母親)

れずに購読したのがこの雑誌との出会いでしたが、いつの間にかモニターにまでなりました。私です。すっかりこの本のファンになってしまいました。とにかくざっくりばらんな雑誌で、しかも奥行きのある深い内容であるというのが気に入っています。いま、考えたいと思うテーマをとりあげてくれるのもうれしいです。

(母親)

仕事の「ネタ本」です
金銅富美子・大阪

『ちいさいなかま』と出あって四年目。いまでは仕事の面ですっかり「ネタ本」になっています。講座の企画も特集の内容をヒントにさせてもらったり、講師も参考にさせてもらっています。今年の春

は「人形劇のはじまりはじまり」をヒントに「はりきりママの手作り人形劇」という講座を託児付きで開催しました。(公民館職員)

もつと肩の力をぬいては
村瀬一美・東京

ちいさいなかまはとてもとても真面目にとりくんだ雑誌だと思えます。そこがよいところだと思えます。ただ、もう少し肩の力を抜いたりフハハと笑えるページがあっても楽しいかなと思います。

(母親)

結婚して母となつてからは
宮田律子・愛知

保母になって一〇年。独身保母のころは買っただけでもバ

ラバラッと見出しをみて興味をひかれる記事しか読まなかつた私。結婚して母となつてからはすみからすみまで、うんうんわかるわかと納得して読んでいます。

(保育者)

子どもの詩はずいパワー
森下都・京都

子どもの詩のページが好きです。さっぱりした「〇行ほどの中にほんわかしたもの、びかびかしたもの、ゆつたりしたもの、じんわりしたものが入っている。

君たちの何倍も大きな大人を元気に楽しくしてくれるす